

総合型図書館構想 「21世紀の森」から「まちなか」へ

「個」のある図書館、「輪」をつくる図書館」をコンセプトに、中心市街地の賑わい創出の場と期待をうけオープンしたいわき総合図書館ですが、当初は常磐地区の 21 世紀の森公園内に建設される予定でした。

平成 3 (1991) 年 2 月、市は、平、小名浜、常磐の市街地に囲まれた丘陵地に、緑豊かな市民のふれあいの拠点を作る「21 世紀の森整備構想」を策定します。この 21 世紀の森のゾーンニングのひとつとして、平成 6 (1994) 年 2 月「文化・交流施設整備地区(文化コア)整備基本構想」が策定され、21 世紀の森整備区域内の文化・交流施設整備地内に「(仮称)いわき市民総合図書館」として整備する方針が打ち出されます。

当時、日本はバブル景気に沸き、地方財政も潤っていました。文化センターの中央図書館が手狭になっており、関係者から新しい独立型図書館の建設要望もあったことから、新図書館の建設機運は盛り上がります。

しかし、バブル崩壊など社会状況の著しい変化をうけ、平成 10 (1998) 年 7 月頃より「文化コア構想」を見直すことになります。また、同じ頃、「中心市街地の活性化に関する法律」(平成 10 年 6 月)が公布され、コンパクトシティや公共施設の市街地への整備などが注目されるようになりました。

少子高齢化の進展、中心市街地の空洞化、景気の長期低迷、市民ニーズの多様化など、社会経済情勢が急激に変化し、特に大規模事業は効率性、事業効果への慎重な配慮が求められるようになっていました。このような社会情勢の変化をうけ、平成 11 (1999) 年 4 月、「文化コア構想」に結論が出され、市民生活に身近な図書館や文化ホールなどは、中心市街地へ整備する方針が示されました。図書館は平一町目周辺への整備が検討されていました。



『いわき民報』(平成 6 年 3 月 30 日付)



『いわき民報』(平成 11 年 4 月 28 日付)



文化・交流施設整備地区イメージ
(『いわき市文化・交流施設整備地区基本構想策定調査報告書』より)